

俗詩人

！ばかり使う詩人が居たそうな
何と阿呆の奴よと言ってた俺が

くるひ
来日も来日も呟いた

ああ、ああ、ああとばかり・・・

これぞ古典的詠嘆の復活よとは
何とも愚にもつかない自己弁護
それでもこの呻きが俺ならば
どうしたって、心ならずも俗詩人

今日も今日とて呻きます
それでもせにゃあ、この憂い
積もり積もって、拳句には
押し潰されるがオチですじゃい

どうせ誰も読んでくれぬ
そんならそうでこの俺は
ひとりで呆けた踊りを舞います
独りぼっちの道化師です

(1982.4.27)